

# ハーモニー

Harmony

第60号 2012年12月20日発行  
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座  
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

第20回学術集会を終えて.....	1	2012年度総会報告（速報）.....	6
第20回学術集会を終えて.....	2	2013年度研究助成金研究の選定報告.....	7
学会設立20周年記念集会の報告.....	3	第20回学術集会「投稿奨励研究」選定報告.....	7
学会参加者の声.....	4	学会誌第17巻第1号投稿原稿の募集.....	8
特別企画「東日本大震災を経験して －被災地の今－」②.....	5	事務局より.....	8
「私の実践と研究」リレー・レポート⑬.....	6	計報.....	8
		編集後記.....	8

### 第20回学術集会を終えて

学会長 林 典子（東海学園大学）

第20回学術集会には、全国から500名を超す皆様の参加を得て開催することができ、心より感謝申し上げます。おかげで、とても有意義な学会となりました。

本学会のメインテーマは、「職制70周年を経た今、子どもたちの健やかな成長を支える養護教諭の“力量”を究める」と題して行いました。学会長である私の経験から捉えた力量を踏まえ、シンポジウムでは養成の立場、行政の立場、主任養護教諭の立場、研究会の立場からの提言をいただき、フロアの皆様と研究協議ができました。メインテーマに近づく内容であったと思っております。また、学会助成研究では2題、一般演題では41題（口演24題、ポスター17題）の発表があり、どの発表も養護教諭の力量につながるものであったと思われる。本学会には、学会員でない先生方が約200名参加してくださいました。中でも多かったのが、現職養護教諭の先生方です。参加して下さった養護教諭の先生からは、「学会というと、とても敷居が高かったが、今回参加して現場の養護教諭にとってとても勉強になるものだと痛感した」「このような学会ならば学会員として登録したい」等の声を聞くことができました。

その他に医師、心理関係の大学の教員など、養護教諭と関わりのある先生方の参加も多くありました。その先生方からは「養護教諭の重要性を認識した」「養護教諭を応援したい」「来年の学会にも行ってみたいと思っている」等の声がありました。

4つのワークショップでは、講師の先生方が事前に細部にわたる準備をして進めていただきました。どの会場も熱気がみなぎっておりました。参加した先生から、「経験の浅い人、豊富な人、両者にとっても良い研修の機会となった」「楽しく研修ができた」等の声がありました。

今学会の成果を一言で言うならば、「現職」と「養成」が学術という側面からつながることができたことと思います。私が養護教諭であったとき、実践ありきで理論的な裏付けの弱さを感じておりました。とかく「やった」「やった」の実践から一歩進んで、根拠を踏まえた実践や、実践を理論に結びつけていくことが重要であると思われる。このような意味から、この学会の内容が現場の養護教諭の実践研究に、会員の方々の研究実践に活かされることを切に願っております。

盛会に導いてくださったコーディネーター、シンポジスト、座長、講師、発表をして下さった先生方に心より感謝申し上げます。また、後援をいただきました

た東海4県及び3政令指定都市の教育委員会、全国養護教諭連絡協議会及び東海地区の9養護教諭研究会に心より感謝申し上げます。

最後にこの学会の運営に携わっていただきました実行委員、協力委員、東海学園大学の学生の皆さんの多大なご尽力にも心より感謝申し上げます。

## 第20回学術集会を終えて

事務局長 下村淳子（愛知学院大学）

第20回学術集会は2012年10月6日～7日に無事終了することができました。ひとえに会員の皆様のご協力の賜と心より感謝しています。学会が設立して20回目となる今学会は周年行事と同時開催となることから、参加者の交通の便を考えて名古屋駅前のウインクあいちで開催しました。高額な会場費や施設使用料を無事工面できるかが最大の関心事ではありましたが予想を超える大勢の方にご参加いただき、また多くの参加者から「勉強になった」「参加して良かった」と言っただき、心より安堵しているところです。今回の学術集会では、514名（内訳：会員 204名、会員外 187名、学生 123名）の参加者をお迎えすることができました。今学会では学会長基調講演、シンポジウムの他、一般発表41演題（口頭発表24演題、ポスター発表17演題）、ワークショップ（4会場）、ランチョンセミナー（2会場）を開催し、どの会場でも熱心な意見交換が行われていました。また、会員外の養護教諭が大勢参加してくれたことを、何よりうれしく思っています。「敷居が高いと思っていた学会に初めて参加したら、案外楽しかった。来年は私も何か発表してみたい。」こんな風に仲間が増えていくことを願って準備してきましたので、学会員以外の方の参加者は大変うれしく、新たに会員として仲間に加わって下さった方もいらっしやると聞きます。是非、来年の神戸学会では発表者となって学会に参加していただきたいです。

学術集会の開催にあたっては、企業・団体様からのご支援もいただきました。今学会では展示・販売が10団体、抄録集への広告掲載も10団体からいただきました。また、16の教育委員会・研究団体から後援をいただくとともに学会中は8研究会がパネル展示によって活動報告をしました。養護教諭の研究会による活動報告は学会の企画としては新たな試みでしたが、お忙しい中でも快く協力していただくことができました。心

より感謝しています。今回の企画が養護教諭研究会の活動の充実発展に少しでも貢献できればと思っています。

そこで、参加者からいただいたアンケート調査結果をまとめましたので、以下報告します。

### 【アンケートの集計結果】

回答者数：140名（ ）内は人数

回答者内訳：会員（56）、会員外（63）、学生（21）

1. 何で学術集会の開催を知りましたか？（複数回答）  
研修会・学会などで配付されるチラシ（71）  
ホームページ（26）  
日本養護教諭教育学会学会誌（21）  
ハーモニー（15） 雑誌（9）その他（34）
2. あなたが興味を持った内容は何ですか？（複数回答）  
ワークショップ（68） 一般研究発表（60）  
シンポジウム（43） ランチョンセミナー（33）  
学会長基調講演（28） 助成金対象研究発表（20）  
常設展示（10）
3. ワークショップは何に参加しましたか？  
(1) 参加したワークショップ  
W1（26）、W2（24）、W3（7）、W4（35）  
(2) ワークに参加していかがでしたか？  
よい（70） ふつう（8） よくない（1）
4. 会場までのアクセスはいかがでしたか？  
よい（129） ふつう（8） よくない（0）
5. スタッフの対応はいかがでしたか？  
よい（105） ふつう（28） よくない（4）
6. 企画・運営に関するご意見（記述内容より抜粋）  
<良かった点>
  - ・養護教諭の職務に関する幅広い内容で充実していた。
  - ・どの企画もとても良かった。参加して良かった。
  - ・スタッフと学生のきめ細かい対応と笑顔が良かった。
  - ・駅前で分かりやすく交通の便が良いので助かりました。
  - ・1会場での開催で移動距離が少なく便利でした。
  - ・初めて参加した。人の多さにびっくり。養護教諭の自己研修の場として今後も開催を望みます。<改善すべき点>
  - ・受付が混雑していて待たされた。動線を考えた配置を。
  - ・会場が狭くスライドが見えにくかった。
  - ・ワークショップの内容を事前に知りたかった。
  - ・階の上下の移動が大変。同じフロアでの開催を望む。
  - ・ランチョンやワークの申込方法がわかりにくかった。
7. 次年度の学会への要望（記述内容より抜粋）  
・「実践研究の進め方」を引き続き取り上げて欲しい

- ・子どもの貧困、外国人児童対象の指導について
- ・子どもの安全管理、特に被虐待児の早期発見の仕方
- ・養護教諭の職務（立場）の確立について
- ・養護教諭の地域機関との連携
- ・養護教諭の倫理綱領を養成教育と職務の羅針盤に
- ・栄養教諭との連携について
- ・学会は現職養護教諭が参加しにくい雰囲気がある。気楽に参加できるような配慮を望む

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。皆様からの貴重なご意見・ご要望は第21回学術集会の実行委員会に申し送りさせていただきます。来年、皆様と神戸でお目にかかれることを楽しみにしています。

第20回学術集会実行委員一同

## 学会設立20周年記念集会の報告

学会設立20周年記念事業実行委員会  
委員長 後藤ひとみ（愛知教育大学）

第20回学術集会との同時開催で「学会設立20周年記念集会」を挙行了しました。これは、1992年11月21日（土）の設立から20周年を迎えた本学会の節目を記念して計画した「学会設立20周年記念事業」の一つとして行いました。本稿では、記念集会として企画した5つの事項（①記念式典、②記念特別講演、③常設展示、④祝賀会、⑤ミニシンポジウム）の概要についてご報告します。それぞれの詳細は、「学会設立20周年記念誌」をご覧ください。

### ①記念式典

10月6日（土）午前10時～10時50分に大ホールにて開催しました。ご来賓として、本学会がHPのリンクを張っている関係学会及び関係団体のうちの4団体（日本学校保健学会、日本健康相談活動学会、全国養護教諭連絡協議会、日本養護教諭養成大学協議会）の代表者をご参列くださり、日本学校保健学会の佐藤祐造理事長がご祝辞を述べてくださいました。また20歳になった学会を祝して、学会設立時（1992年度）から20年間会員である26名をご紹介します、ご出席くださった13名の方々に三木理事長が感謝状と記念品を贈呈しました。「日本養護教諭教育学会20年のあゆみ」と題して、「学会の設立経緯」「会員数の動向」「通信及びハーモニーの発行」「研究大会及び学術集会の開催」「養護教諭の英語表記についての検討」「研究活動への支援」「養

護教諭の専門領域に関する用語の解説集の発行」「対外的な活動」「学術団体としての評価」などについて報告し、「学会設立20周年記念事業」についても紹介しました。本学会が20年かけて培ったきたこと、成し得てきたことがわかる式典になったと思います。

### ②記念特別講演

記念式典の後、午前11時～12時30分に菅原哲朗氏（キーストーン法律事務所弁護士）による「養護教諭の学校事故判例と救急処置を巡る法的諸問題」と題した特別講演を行いました。氏は健康教室に連載したことがあり、その内容を生かして学術集会抄録集には「養護教諭参考判例一覧表」として10例をご紹介します。ご講演では、「スポーツ事故が起こる心理状態」「応急手当の法的根拠」「養護教諭の期待される役割」「紛争に対処するための6つの指針」などの多くのご示唆をいただきました。詳細は、学会誌第16巻第2号（2013年3月発刊予定）でご報告いたします。

### ③常設展示

10月6日（土）と7日（日）の2日間にわたって、ボード4枚にまとめた日本養護教諭教育学会「20年の歴史」をポスター掲示しました。ボード前の机上には、第1回～第20回までの学術集会抄録集、第1号～第59号までの機関紙ハーモニー、第1巻第1号～第16巻第1号までの学会誌、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」第一版と第二版を現物展示し、過去のハーモニーの残部は無料配付しました。設立当初からの会員の方は、昔を思い出して涙が溢れてきたそうです。何事も手作りで苦労した時代を思い起こされたのかもしれない。先人のご尽力に深く感謝申し上げたいと思います。

### ④祝賀会・懇親会

10月6日（土）午後5時～7時に展示場で行いました。例年は懇親会として開催していますが、今回は20周年の祝賀会という要素を合わせて企画しましたので、学会設立20周年記念祝賀会のご来賓を代表して日本学校保健学会理事長、第20回学術集会懇親会のご来賓を代表して愛知県教育委員会健康学習課課長にご挨拶していただきました。堀内久美子初代理事長のご発声で乾杯し、歓談中には「20年の歩み（ダイジェスト）」と20年会員からの声」を紹介し、20年会員等のスピーチ、お楽しみコーナーなどを行いました。司会者と実行委員のサプライズ企画で歴代理事長が花型の燭台をいただく場面があり、照明が消された中で小さな灯りがと

もるといふ幻想的な一場面になりました。最後に、第21回学術集会（神戸市）の北口和美学会長からの挨拶があり、再会と盛会を願って閉会しました。

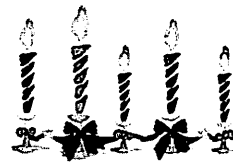
#### ⑤ミニシンポジウム

10月7日（日）午前9時50分～11時20分に三木理事長の司会で行いました。「歴代理事長が語る本学会のこれからの使命と期待」をテーマとして、これまでの学会の歩みを振り返るとともに、フロアからの意見を交えて今後の学会への期待などを話し合うことを企図して行いました。第Ⅱ期と第Ⅲ期の理事長が健康状態等の諸事情で欠席しましたが、堀内初代理事長が大谷尚子元理事長、後藤前理事長が天野元理事長の代理として発表しました。「学会胎動期から第Ⅱ期までの活動」や「第Ⅲ期から第Ⅴ期の活動」の総括をふまえて、今後はますます養護教諭教育にふさわしい学術研究の充実と養護教諭の専門性を支える学問の構造化が本会に課された責務であること、今回初めて提示した「一般演題の領域区分」をその足がかりにする必要があることなどが提言されました。フロアからは学会のPRはもちろんのこと、開催地域での会員拡大、魅力あるテーマの設定、期待に応える内容、養成機関での学生への紹介など、入会促進にむけたアイデアが出されました。終了後、参加者からは「設立時からの経過がとてもよくわかった」「本学会での学びは、職務上の迷いから抜け出し、養護教諭としての誇りをもつことにつながった」などの意見が寄せられ、それぞれが本学会に対する思いを深め、さらなる充実発展に向けて考える有意義なシンポジウムになりました。

以上のように、記念集会では①～⑤の企画を進めましたが、この他にもいくつかの事業を展開しました。まず、今回の学術集会で初めて「一般発表の演題区分（「原理・歴史」「現職教育」「養成教育」「養護実践」「保健室経営」「組織活動」「保健管理」「健康教育」「その他」に分類）」を提示し、この区分を生かしてプログラムを作成してもらいました。また、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第二版＞」（2012年10月1日発行）を学会参加している会員の方々に配布しました。20周年記念事業は「20周年記念誌」の発行をもって、すべてが終了します。記念事業の経費については学会誌第16巻第2号でご報告いたします。

記念誌にご寄稿くださった方々の言葉に見るとおり、20周年を契機として、養護教諭の未来にむけた確かな一歩を踏み出すことが期待されています。養護教諭を

冠した唯一の全国学会として、ますますの充実と発展が望まれます。会員の皆様におかれましては、今後とも積極的なご参加とご支援の程をお願い申し上げます。



### 学会参加者の声

## 「第20回学術集会に参加して」

米野 吉則（兵庫大学附属須磨幼稚園）

本年度の学術集会は学会設立20周年、養護教諭の職制70年という節目に開催され、私はそんな記念すべき年に縁あって参加をさせていただきました。今、学校保健活動の推進では中核的役割を養護教諭に求められています。今回の特別講演やシンポジウム等では、その役割に必要な養護教諭の資質や力量についての内容で自分自身を見直すきっかけとなりました。

また、私は一般口演で口頭発表をさせていただきました。養成機関の先生のみならず現職の養護教諭の方々も多く参加されていて、様々なご意見やアドバイスをいただきました。その中で、ある現職の先生から「養護教諭は一校にひとりだから自分の実践をまとめ、こういう場でみんなで共有し、検証していくことはとても大切なことだよ」とお言葉をいただきました。日々の執務に追われながら、自分の実践を振り返り、まとめていくことは時間も労力も必要になります。しかし現場にいるからこそ、自分の実践がどうであったのかを発信し客観的に問う必要性があり、そのことがとても重要であることを学びました。今後も、実践を研究につなげることで自分の実践を問い続けていきたいと思えます。

最後に、この学会でお世話いただいた関係者の皆様方に心から感謝いたします。そして発表やワークショップを通して大学や現職の先生方と貴重な交流をさせていただきました。一期一会、この出会いも大切にしたいと思います。ありがとうございました。

## 「第20回学術集会に参加して」

遠藤 瑠生（弘前大学大学院教育学研究科）

私は今年の春大学を卒業し、現在、大学院1年生です。院への進学では、より養護教諭に近づきたい、現

場での養護教諭の実践を知りたい、卒業研究での成果を子どもたちに繋げたいという思いがありました。そこで、そんな学びが出来るのではないかと思います、学会への参加を決めました。思った通りにとても深い学びとなりました。

今回が初参加で口頭発表も行うということで、学会開催の何ヶ月も前から緊張と楽しみの入り交じった気持ちでいました。発表では、座長の梶岡多恵子先生に私の伝えたい部分をさらに引き出して頂き大変感謝しています。

また、様々な発表は、子どものために発揮されている養護教諭の“力量”というものを感ずることができ、今後に生かしていきたいものばかりでした。養護教諭を目指す者として、多くの先生方の実践と養護教諭という職に対する情熱に触れ、とても勉強になりました。

ワークショップでは、班のメンバーの皆さんに温かく接して頂き、心地よく意見を交わし合うことができました。これも養護教諭の先生方や養護教諭を目指す学生の皆さん等、向かうところが一緒である仲間だからその一体感なのではないかと感じました。

今回の学術集会は、私にとって養護教諭の実践の素晴らしさを改めて感じ、新たな学びや気づきを得ることができたとともに、養護教諭に絶対になりたいという強い意志を再確認する場となりました。本当にありがとうございました。

## ＝「学会参加とポスター発表を終えて」＝

西田麻優香（静岡県立科学技術高等学校）

私は初めて日本養護教諭教育学会に参加しました。初日の朝、少し早く会場に着くと、受付時間前にも関わらず、たくさんの参加者が列を作っていました。大ホールで行われた「学会設立20周年記念式典」では、広い会場を埋め尽くす参加者がおり、節目の年に相応しい、予想以上の賑わいでした。

特別講演では、実際に学校現場で起きた事故の訴訟事例を専門家である弁護士の先生から聞くことで、養護教諭としての心構えや学校体制の在り方を学ぶことができました。そして、養成大学の取り組みや今後についてのシンポジウム、企業の講演会にも参加し、ワークショップでは、全国の養護教諭の先生方との交流も経験できました。

また今回、ポスター発表という形で、2年前に取り組んだ卒業論文の研究を発表、掲示させていただくこ

とことができました。テーマは「小学校における児童のトイレの使い方」についてです。発表の前後には、ポスターを見た多数の先生方から、それぞれの立場や視点でのご意見や質問をいただけ、たいへん貴重な経験となりました。

最後に、私ひとりでは発表に漕ぎつけることはなかったと思いますが、指導して下さった恩師、並びに現場で助言して下さった同僚の先生に感謝するとともに、ここで得たことを現場の生徒へ還元していきたいよう、日々の執務に取り組んでいきたいと思っています。

そして、来年度以降も学会員として、学会に参加していきたいと考えています。



## 特別企画 『東日本大震災を経験して —被災地の今—』②

### 「東日本大震災から」

菱沼 ゆう（仙台市立宮城野中学校）

東日本大震災をとおして考えたことの中から、2つのことについて述べさせていただきます。

#### 1. 「ゼロ」となる可能性を持つ

今回の地震は、地盤の揺れとともに巨大津波を伴い、校舎の破損状況から、安全が確認できないとして全く校舎に入れなくなった学校や、津波に学校が丸ごと飲み込まれたり浸水してしまい、保健室やその機能が「ゼロ」となってしまった学校が多くありました。毎年行ってきた健康診断のデータ・生徒や職員の健康作りに向けた取り組みの蓄積・各種プリントの綴り・書籍・保健室の設備・備品など、全て無くなってしまい「ゼロ」となったのです。同僚や養護教諭同士のつながり、各市町村、そして全国の多くの方々からの様々な御支援をいただき、現在は、復旧復興に向かっていきます。しかし、入力した種々のデータ・生徒との関わりの記録など、取り戻すことができなかったものもありました。

自然災害では、学校や保健室が「ゼロ」となってしまいう可能性があることを、心していなければならないと思いました。

#### 2. 養護教諭の存在が避難者の安心に

本校は、海辺から10キロほど内陸にある生徒数682

名の学校です。約1ヶ月間、避難所となりました。震災当日は、約1,000人の避難者がいて、傷病者も多々ありましたが、避難所開設の期間中、避難所で死亡された方はなく、救急車に来ていただいたのは2回でした。避難所運営は、はじめ全職員が一丸となって、共通する多くのことを一緒に行っていました。しかし、その内容は随時変更され、やがて、食事係・清掃係・正門の門番係・救護係・水くみ係の5つに分担されました。避難所は24時間体制ですので、勤務時間も、8時間交代となりました。「救護係」も養護教諭だけではできませんでした。避難者の健康に携わった人たちをあげれば、養護教諭、女性教諭、看護師経験のある避難者、時々巡回にいらした学校医や接骨院の先生、他県から短時間訪問された保健師、健康体操の普及員、受付を担当した区役所の所員等々、多職種・多人数でした。もちろん打ち合わせなしでの対応となりました。慣れない3交代勤務のため、見えない部分も多くありましたが、どうかやってこられたのは、重傷者が少なかったことと、支援者全員が「みんなで一步一步前進！」という思いがあったからだと思います。

私は、避難所で一人一人に声を掛けニーズを把握し、可能な限り要求に応え、時に体温や脈を測り体に気を配りました。避難者から、「先生がいて、みんな安心なんです。」そんな声が聞かれました。老若男女の人たちの心と体の健康に関わる養護教諭が、必要とされていたと思います。

## 『私の実践と研究』リレー・レポート⑬

### 「担任を支える学校保健組織活動」

鈴木 雅子（成立学園中学・高等学校）

トントン「先生、入ってもいいですか？」生徒が下校し静まりかえった保健室にノックが響く。入ってきたのは、長期欠席の生徒を抱える担任教諭である。ガックリと肩を落とし、疲れ切った様子で先ほど終えたばかりの保護者との電話対応を話し始める。「担任の先生がもっと配慮をしてくれれば…」など保護者からの要望を受け、長期欠席生徒を抱える担任は自責の念を抱き、深く傷ついている場合が多い。高校における長期欠席生徒は経過が長く、原因も複雑に絡み合っている。保健室を訪れた担任へは傾聴と欠席の原因は「あなただけのせいではない」と話し支える。そして、原因探しをするより対応策を一緒に考えていこうと伝える。しかし、傷ついている

るのは心だけではなく、保護者の帰宅時間に合わせた電話対応は、教材研究・学級事務の時間まで食い込むこともあり、食事や睡眠時間が削られ体調を崩す教諭もいる。同僚・学年主任も対応を試みたが、この問題は教職員全体での対策が必要であった。そこで、組織として動いていくため法人部に相談、学園全体として教職員支援の対策を検討した。結果、①産業医による全教職員面談を実施、②カウンセラーによる教職員相談日の確保、③教職員健康診断項目の見直し（ストレスによる歯周病・歯科疾患が多いため歯科検診を導入）、④保護者対応勉強会の開催、⑤長期欠席生徒の早期把握のため健康観察表の導入の5項目を実施した。特に、⑤の健康観察表の導入は悩みを抱え込みがちな担任をサポートする上で有効だった。小・中学校で行っている朝の健康観察表と同様に、担任は欠席・遅刻など教室での様子を記入し、養護教諭は保健室に来室した様子と処置を記入する。担任も養護教諭も、健康観察表にできる限りコメントを入れていく。健康観察表のやり取りは往復書簡の様になり、コミュニケーションが増していった。また、健康観察表上の情報は可能な限り他教員と共有をした。以上の取り組みにより、1人で悩みを抱え込む教諭は減り、教職員のメンタルヘルス対策として効果が出ていると感じている。

現在は、実施した効果を数値化する作業を産業医と共に行っている。現場の実践は楽しい。しかし、実践と研究の間には見えない大きな河が流れている。大学院を出てから随分経過し、錆びだらけの頭と体でこの河を泳ぎ切るには自信はない。が、現場で培った度胸と人脈が橋渡しとなってくれるに違いないと最近では思っている。



## 2012年度総会報告（速報）

下村 淳子（総務担当常任理事）

2012年度総会は第20回学術集会において179名（委任状提出者92名を含む）の参加を得て開催された。議長には林典子年次学会長と田嶋八千代会員が選出され議事進行した。以下に審議・承認された議事の概略を報告する。

日時：2012年10月7日（日）12時40分～13時40分

場所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）

出席者数：87名 委任状提出者：92名

議事と提案者は以下の通り。

- 2011 年度事業報告（三木理事長）
- 2011 年度決算・監査報告（池田理事・高井監事）
- 2012 年度事業経過報告（三木理事長）
- 2012 年度補正予算審議（池田理事）
- 2013 年度事業計画（三木理事長）
- 2013 年度予算審議（池田理事）
- 「日本養護教諭教育学会役員を選出に関する内規」の改正（下村常任理事）
- 研究助成金対象研究の選定（高橋常任理事）
- 第 22 回学術集会（2014 年）開催地報告

総会では最初に 2011 年度事業報告、2011 年度決算・監査報告、2012 年度補正予算審議があり承認された。2012 年度事業経過報告では、会員から「養護教諭の倫理綱領（案）」を学会事業として検討して欲しいとの要望が出された。これに対し三木理事長から、2013 年度の学会活動委員会のもとで「養護教諭教育に関する現代的課題」の 1 つとして検討していくとの回答があり事業経過報告は承認された。あわせて 2013 年度予算も承認された。第 21 回（2013 年）学術集会は、北口和美年次学会長（大阪教育大学）のもと神戸市で開催されることが報告された。さらに昨年の役員選挙の課題を受けて「日本養護教諭教育学会役員を選出に関する内規」の第 4 条（12）「選挙管理委員会は、ブロックごとに、得票数の多い順に役員就任の意向を書面によって確認する。」に「得票が同数の場合は、会員歴の長い順に確認する。」が新たに追加された。また、2013 年度研究助成金対象研究に新規 2 件が承認された。第 22 回（2014 年）学術集会の年次学会長は岡田加奈子会員（千葉大学）に依頼することの報告があり、総会を終了した。その後、北口和美第 21 回学術集会学会長より挨拶があり、2013 年 10 月 12 日・13 日にシーサイドホテル舞子ビラ神戸（神戸市）にて開催すると案内があった。最後に、今期の役員及び事務局担当者の自己紹介を行った。

## 2013 年度研究助成金研究の選定報告

高橋 香代（学術担当常任理事）

2013 年度研究助成金対象研究は、本年度から申請先を学術担当常任理事に直接行うことにし、2012 年 9 月 10 日の締切で募集しました。本年度の研究助成金対象研究の応募は 3 件でした。選定作業は、2012 年 10 月 5 日に開催された第 3 回理事会において、研究

の目的・独自性、研究方法、助成金の使途等の選定基準（2006 年度総会承認）に則って行いました。その結果、研究の独自性に優れ、助成金の使途が適切であった 2 題を選定しました。

選定された研究課題は、①「養護教諭初任者支援研修のプログラム開発」（代表者：櫻田淳、埼玉県立大学）、②「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の系統的指導計画の開発と評価—健康教育実践における養護教諭のマネジメント力向上の検証—」（代表者：西村孝江、倉敷市立粒江小学校）であり、2012 年度総会にて承認をいただきました。

今回、現職養護教諭が代表者である研究課題の応募は 2 件であり、そのうち 1 件が選定されました。2014 年度研究助成金対象研究の募集も、本年度と同様に行われる予定ですので、現職養護教諭をはじめとする会員の皆様には、研究助成金対象研究に積極的にご応募いただきますようお願い申し上げます。

## 第 20 回学術集会

### 『投稿奨励研究』選定報告

高橋 香代（学術担当常任理事）

学術集会の一般発表から優れた研究を推薦する「投稿奨励研究」制度は、2009 年度総会で制定され、2010 年度に開催された第 18 回学術集会からスタートしました。本制度は、養護教諭教育に関する研究の一層の発展を図ること、とくに現職養護教諭による研究を推進することを目的としています。

第三回投稿奨励研究は、第 20 回学術集会で会員が発表した一般演題 40 演題の中から、学術集会学会長、座長、日本養護教諭教育学会役員に依頼して、投稿奨励研究にふさわしい演題をご推薦いただきました。今回 2012 年 10 月 31 日に締め切り、11 題の推薦がありました。その中から、メールによる理事会で、推薦者の多い次の 2 題を選定しました。

第三回投稿奨励研究は、①「学級担任が行う朝の健康観察に関する研究」（田邊恵子、静岡県磐田市立磐田中部小学校）、②「幼稚園に勤務する養護教諭の職に関する一考察—幼稚園教諭のインタビューから」（米野吉則、兵庫大学附属須磨幼稚園）です。

2010 年度に選定された第一回投稿奨励研究は、学会誌第 15 巻 2 号に原著論文「健康相談活動における心理・社会的アセスメントとその支援の有効性に関する

る研究一言語によるコミュニケーションが可能な知的障がいや発達障がいのある生徒への支援を通して」(池川典子, 徳山美智子, 西能代, 菊池美奈子)として、また学会誌第16巻1号に原著論文「いじめ、暴力行為、性暴力の加害生徒支援における養護教諭と生徒指導部の連携プロセスと課題」(菊池美奈子, 徳山美智子, 鈴木秀子, 元田綾子, 池川典子)として掲載されました。第一回の投稿奨励研究に続いて、第二回、第三回の投稿奨励研究の発表者による学会誌へのご投稿により、会員の研究活動が益々の充実することを期待しております。



### 学会誌第17巻第1号の投稿原稿の募集

齊藤ふくみ (編集委員会事務局)

本学会誌は第15巻より年2回発刊となりました。原稿は年間を通じて受け付けていますが、目安として、第1号(9月発刊予定)に掲載をめざす場合は3月末日を締め切りとします。従いまして、第17巻第1号は、2013年3月末日が締め切りとなりますので、投稿をご予定されている会員の皆様は、ご準備をお願いいたします。

本学会誌は、養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動に関わる研究成果(論文)を募集しています。過日開催された第20回学術集会で発表されたご研究をおまとめいただき、ご投稿されますことも大いに期待するところです。投稿される際には、投稿規定(学会誌第16巻第1号62~67頁)を熟読されて、十分推敲された原稿をご投稿ください。査読に大幅に時間がかかる場合は、次号以降に掲載が延期されることがありますのでご承知ください。なお、本年度より編集委員会事務局は以下に変更になっています。ご投稿および問い合わせはこちらをお願いいたします。

〈編集委員会事務局〉

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号

茨城大学教育学部教育保健教室 齊藤ふくみ

TEL / FAX 029-228-8298 (研究室直通)

e-mail: fukumi@mx.ibaraki.ac.jp

※学会事務局とは異なりますので、ご注意ください。

### 事務局より

事務局長 圓岡和子

★住所変更等の届けはお早めに!

来年3月下旬に学会誌第16巻第2号をお届けします。例年、大学院生や大学生の方で新たに就職し転居された方の学会誌が宛先不明となって返送されてきます。所属先や自宅住所、発送先の変更などがありましたら、すみやかに事務局までご連絡ください。変更届けの様式は、学会誌巻末にあります。FAX・メール・郵送のいずれかでお送りください。

★会費納入のお願い

年会費の未納の方に振込用紙を同封しました。お早めにお振り込み下さい。年会費が2年分滞りますと学会誌の発送を一旦見合わせますので、ご注意ください。また、退会を希望される方でも、滞納分の会費は全額お支払いいただくこととなりますので、ご了承ください。

### 訃報

日本養護教諭教育学会元理事長の天野敦子先生が平成24年11月14日ご逝去されました。享年74歳でした。先生は本学会第Ⅲ期理事長として、2003年度から2005年度までの3年間、本学会の発展のためにご尽力くださいました。かねてより病氣療養中のため本年10月開催の学会設立20周年記念集會もご参加されませんでした。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

### 編集後記

学会設立から20年を迎えた今年は、記念事業等を通して20年間の学会の確かな歩みを確認した年でした。

ハーモニーも今号で60号となります。60号の間には様々な変遷がありました。詳しくは、同時に配送される、「20周年記念誌」をご覧ください。ハーモニーがこれからも、学会の機関誌としての役目をしっかりと果たすよう良い紙面作りに努力してまいります。

来年もどうぞよろしく願いたします。(古賀)

